

受領No. 1613

## 検索エンジン・生成 AI のサービス利用がアンコンシャス・バイアスの拡散に与える影響に関する心理学研究

代表研究者 山田 歩（滋賀県立大学 准教授）

共同研究者 谷口 友梨（滋賀県立大学 講師）

### Psychological research on the impact of search engine/generative AI service use on the spread of unconscious bias

Representative Ayumi Yamada (Associate Professor, The University of Shiga Prefecture)

Collaborator Yuri Taniguchi (Lecturer, The University of Shiga Prefecture)

### 研究概要

本研究は、検索エンジンや生成 AI のサービス利用が、アンコンシャス・バイアスの拡散に与える影響を明らかにする。アンコンシャス・バイアスとは特定の社会集団に対して無自覚的に適用される偏見を指す。画像検索や画像生成の既存サービスがアウトプットする「画像」には、ジェンダー等における表現の偏りが広範にみられる。これらのサービス利用がアンコンシャス・バイアスを社会的に拡散する原因になっている可能性があることを行動実験によって検証する。実験では、「画像検索」や「画像生成」の既存サービスを実際に使用して特定の資料を作成する課題を用意し、サービス利用が実験参加者の行動および思考に与える影響を検証する。「サービスがアウトプットする画像にみられる表現の偏り」、「画像の使用目的」、また「（ジェンダー観などの）参加者の価値観」を独立変数として操作し、参加者の資料作成に現れる影響を検証する。アンコンシャス・バイアス拡散の「促進条件」と「抑制条件」を実証的に明らかにすることを狙う。